時代から平安時代にかけて派

います。

に出土して



海を渡った熊本の石棺

現在、全国的な注目を集めている馬門石。

宇土を舞台にした日本古代史上の謎に皆さんも挑んでみませんか。

交通の大動脈・瀬戸内海 日本のエーゲ海とも称えら

て大変な賑わいをみせ、飛鳥戸や大坂を結ぶ主要航路とし 了し続けています。 しい景観は今も昔も人々を魅 れる瀬戸内海 島々が顔をのぞかせ、 紺碧の水面から大小様々な 江戸時代、西日本各地と江 その美

> 器が西日本各地の遺跡で大量 畿地方に運ばれ、陶邑窯跡群 ら馬門石製の石棺が岡山や近 0) 通って遥か2500㎞先の唐 遣された遣唐使(630~8 た須恵器と呼ばれる硬質の土 94年) は、まず瀬戸内海を (大阪府堺市ほか) で焼かれ 都・長安を目指しました。 古墳時代も同様で、宇土か

えます。 史を語ることはできないとい

熊本の「北」と「南」の石棺

は色も形も異なる同じ凝灰岩なかには、馬門石製のものと ところで、運ばれた石棺の

> うです。 話を私達に語りかけるかのよ は、1500年前のこんな昔 て異郷の地へと運ばれた石棺 た。生まれ故郷の熊本を離れ 力豪族の古墳に届けていまし を造り上げ、供給先である有

として瀬戸内海は重要であり

古来より交通の手段(海路)

一戸内海抜きにして日本の歴

3種の石棺の特徴 この県内3地域で造られ

王のひつぎを運ぶ実験航海 製の石棺がありま 徴があります。 石棺は、地域ごとに独特の

島産(馬門産)を 郡竜北町付近)で 池川下流域(玉名 はじめ、県北の菊 地でした。宇土半 は石棺の一大生産 氷川下流域(八代 市付近)や県南の ノミを振るって棺

) (三)

爱媛莲莲寺石棺

から! 香川青塚石棺

菊池川下流域産石棺

日 日 2 日 日 日 2 京員ミロク谷石棺

7

宇土半島産石棺

運ばれた阿蘇石製石棺

二氏作図) 本から海を渡った す。実はこれも熊 石棺なのです。 古墳時代の熊本

則とし、馬門産は蓋の長辺に ます。この特徴から熊本のど 2箇所ずつ突起が付くのを基 身の短辺に突起が付くのを原 こで造られたのか形をみれば す穴が空けられた突起があり 本とします。 菊池川下流域の石棺は蓋と 氷川下流域の石棺は縄を通

クラスの巨大古墳の棺は、 面白いことに大王 (天皇) 最

もつ古墳を紹介します。

比較的容易に識別できるので

る竜山石で造られ、つぎに馬初は兵庫県高砂市付近に産す 門産と時期によって変化しま 内に眠る熊本の古代人」。 考えられています。 ワークが変化していることが 央と地方豪族との連携ネット や政変などを要因として、中 熊本の古墳と共通する特徴を した。このことは大王の交替 次回の4月15日号は「瀬戸 戸内海沿岸に残された、



特



宇土マリーナに展示されている 馬門石製の石棺